

1-(7) 早期成園化技術の習得による梨産地の維持

— 若木管理技術の習得による早期の収益確保 —

1 活動のねらい

梨の安定生産を目的に、改植後の若木管理技術の習得支援を行った。定植後の若木の管理を適正に行うことで、早期の収量を確保する。また、改植方法及び若木管理方法、改植ペースの考え方を学ぶために他産地優良事例を視察した。

2 課題の背景

木更津市では、若手梨農家（10戸）を中心に老木の割合が高まり、収量の低下が一部でみられる。そのため、改植により生産量の維持・増加を進めていく必要がある。しかし改植後成木並の収量がとれるまでにはおおよそ10年を要するため、改植に迷う農家が多い。そこで、改植後なるべく早く収量を確保するために適正な若木管理方法を習得する必要がある。

3 普及活動の経過

(1) 若木管理講習会

木更津市内若手梨農家を対象に若木（夏期）管理講習会を行った。講習会では定植後5年目までの管理を中心に講習を行い、その後参加した農家と一緒に若木管理作業を行った。農家同士が一緒に手を動かすことで技術交流が生まれ、新梢管理技術について、実施適期および実施程度について情報交換がなされた。

(2) 改植優良事例視察

若手4名を含めた木更津市内梨農家20名と先進地視察を行った。視察先は、市川市の漸次改植（病虫害の被害にあった樹、生育がわるい樹などを抜根してその部分だけ改植する方法。木更津市内梨農家で多く用いられる改植方法）の優良事例農家を訪問した。改植した同じ場所に定植すると病害や生育不良が発生するリスクが高いため、定植する場所についても注意が必要なことを学んだ。



写真1 視察先で改植方法について説明を受ける

(3) 若木管理補助器具の提案

管内若手農家に対し、若木の新梢管理を簡易にする補助器具の作成方法について情報提供を行った。この補助器具を用いることにより伸長した新梢の固定が容易に

なる。

4 普及活動の成果

(1) 若木管理講習会

講習会の実施により、若木の夏期管理について参加者内で情報の共有がなされた。新梢の管理については7月に入ってからでは展葉や新梢の伸長が進んでおり管理に手間がかかる。そのため、できるかぎり5～6月から管理を行うことで新梢の管理に割く時間を減らしたほうが良いという考え方が共有された。

(2) 改植優良事例視察

改植の優良事例を視察したことで、3戸の農家において視察先で実施されていた薬剤を灌注する、大苗（2年生苗）を用いる、客土を行うといった土壌病害対策の実践がみられた。

(3) 若木管理補助器具の提案

若木管理補助器具の情報提供を行ったところ、1件の農家で自作し、活用された。この補助器具を用いることで新梢固定に要する時間が短縮され、従来の管理に比べ風により新梢が振れる幅、回数が減ることで生育の改善がみられた。

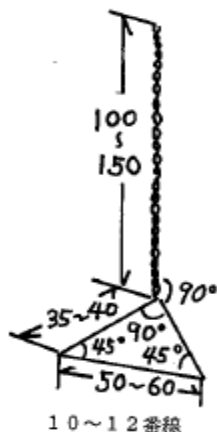


図1 若木管理補助器具（3点支柱）



写真2 現地での活用がみられた

5 今後の発展方向と課題

今年度の改植に関する聞き取り調査を行い、多くの若手農家が将来的に安定した所得を確保するために、さらに改植ペースを上げる必要があることがわかった。特に大規模経営体（栽培面積1ha以上）にその傾向がみられ、今後計画的な改植が必要である。

若手農家の改植意欲向上と必要性を確認するために品種別の樹齢構成の把握と品種・樹齢別の面積を用いてナシ改植意思決定支援システム(Ver.2.01)により所得推移を農家と共有したい。

6 担当者

中央グループ：高橋 大樹、田中 稔久

7 協力機関

木更津市農業協同組合、農林総合研究センター果樹研究室